

第3回「嘉田県政を検証する県民のつどい」記録 (その2)

2014年5月7日(土) 午後1時から午後4時まで

コラボ滋賀3F、参加者約300人

次第

- (1) 呼びかけ人副代表、藤井絢子あいさつ
 - (2) 共同代表からの「チームしが」提案あいさつ 三日月大造 嘉田由紀子
 - (3) 細谷卓爾 発起人あいさつ
 - (4) 若者(村上)、女性(北岡)からのあいさつ
 - (5) 嘉田由紀子 引退あいさつ
 - (6) 嘉田・三日月共同記者会見
-

(1から5は その1に)

(6) 嘉田・三日月共同記者会見

<嘉田>

知事というのは2期8年が一つの区切りと考えていた。そういう中で3期目は確実に種が埋め込めて、県民との約束の土壌改良ができて種が埋め込める見通しを立てようと新年度予算は本格予算にし、組織のほうも最強の組織を作らせていただいた。若い人にバトンを譲るにしても可能性のある場とか文脈できないといけないので、それで「チームしが」ができる可能性があるというのが一つの大きな転換点。

2006年から地域の政党団体というのは考えていたが、民主党と一本化という話をしていの中で3、4月に「チームしが」の見通しがたったというのが引退の一つの大きな要因。引退の二つ目は懸案であった流域治水条例を3月24日に議決いただいた。これも大きな区切りと思っている。

しかし支持者の皆さん、ネット、地域に行っても「三期目頑張ってもらいたい」という声が多かったので、最終的に自分で判断したのは5月5～6日。ギリギリまで迷った。そして昨日5月6日、三日月さんと、それまでもずいぶんと政策集、特に原子力政策について話し合ってきたが、昨日確実に再稼働に当たっては立地自治体並の権限を求めるということの確認をさせていただき、最終決断は5月5、6日にした。

<記者質問、今後は？>

<嘉田>

電源の代わりはあるが琵琶湖の代わりはない。国家として合理的な判断をするなら、琵琶湖の放射性リスクは最小化するのが国家の懸命な判断だと思う。そういう意味で国に合理的な判断をしていただけるような働きかけをするのが次の活動。もう一つの合理的判断は河川政策、特に私ずっと琵琶湖の研究をしてきてダムに頼らない流域治水を実現してきた。最近様々な地域でダム問題の逆行現象があるようなので、ここも全国皆さんと活動できるそういう舞台がほしい。私たちは徹底的にローカルからくみ上げていく。ですから「チームしが」の足腰を強くする。一人でも多くの方に琵琶湖の放射性物質や原子力の問題、あるいは自分の問題として水害、ダム、河川、そういう中で様々な国の動きとの連携は十分ある。今日ちょうど東京出張が入っているのどうかうが、あくまでも私たちは徹底してローカルな地域の皆さんとの環境自治、地域自治の中でチームしがの活動を重視したい。

<質問、国政は？>

<嘉田>

とうていそんなの考えている段階ではない。7月19日まで知事としての任務がある。ここ8年間必死で走ってきた。この8年の県政を振り返る書物、記録をまとめる責任もある。そのあたりをまず記録を作るのが私の仕事。ただ一つ、福井県は明治初期、滋賀は若狭県として福井と一緒にいた。大飯3、4号機を視察にいったとき、大飯原発から滋賀県庁、京都府庁の方が福井県庁に行くより近い。それくらい距離が近いというのはこういう際ですから自覚をしておくのがいい。福井のことはよそ事ではない。

<質問、この時期まで表明が遅れた理由は？>

<嘉田>

「チームしが」の立ち上げ、支持者の説得、納得というのもあり時間がかかった。7月まで時間がないのでここは三日月さんに頑張ってもらいたい。

<三日月>

先ほどの集いで「チームしが」を作ることを発表した。その後、藤井さん、細谷さん、村上さん、北岡さんの意見含め、メッセージいただき、胸が熱くなった。何より嘉田知事から8年間の取り組み、戦い、ご苦労の一端を拝聴した。7月の選挙に出馬なさらない旨拝聴し、非常に重い重い発言をされる場に同席させていただいたことを深く感じ入った。各分野でご活躍の皆さんがお集まりいただいたことで滋賀って良いところだなあと。自分たちの子も3人子どもいるが、子どももそのまた子どもも滋賀で生まれ育って働いて学んでええなあと思ってもらえる滋賀を作りたいと改めて思った。嘉田知事の話をうかがって思っ

た。そういう滋賀を作りたいと思ったし、嘉田知事にあらためて敬意を持った。「チームしが」をつくり嘉田県政8年、さらに武村正義さんから40年の県政を守り、引き継ぐ形で活動することになったのでこれまで以上に重い責任を持ったと思う。現職衆院議員の立場なのでその取り扱いも含めて、今日明日明後日責任の果たし方を最終熟慮し、決断したい。

<記者質問、原子力施策の一致は？>

<嘉田>

4月26日の三日月さんの政策集の中で3点記述いただいた。「卒原発」「フクシマの復興と再生への協力」「原発再稼働にあたっては立地自治体並の条件求める」。私自身、立地自治体並の条件にできていない。3・11以降関西電力始め、3つの事業者と安全協定を結ぶ作業をしてきたが、安全協定の中に福井は同意とあるがその部分が滋賀県としてとれていない。報告とか情報の共有というレベルにとどまっているので、そこは若い力で交渉を続けてほしい。函館があのような形で提訴した。そこはそういう手法があるということを含めて研究し、何より大事なのは県民に納得いただき、イメージ持ってもらえるということ。納得とイメージというところで三日月さんに発信していただきたい。

<三日月>

4月26日に示しました資料で、嘉田県政の評価と共感共有する理念と未来へつなぐ政策という中に知事が言われた言葉を入れさせていただいた。入れるにあたり嘉田知事とは何度も協議した。他の方も意見交換しながら、26日の資料を作り配った。私も人の命を守る平和を守る科学技術の発展に夢を持ちたいし、現場でエネルギーをつくり運ぶためにご尽力いただいた方には敬意を表したい。しかし3・11で大きく変わったということをもっと強く深く自覚しないといけない。民主政権時代に3・11が起これ、私も政権与党の一員だった。2030年代原発稼働ゼロを目指し、あらゆる政策資源を投入する国民的合意をつくり発信したが、これだけ近いところに多く原発が立地する滋賀で、湖北地域で琵琶湖のまわりで多くの方がそれだけでは足りないという意見を持っているというのを1年4ヶ月地域を歩き、自覚した。できるだけ早く「電源の代わりはあるけど、琵琶湖の代わりはない」というのをしっかり国の政策に反映してほしい。被害地元として再稼働の際は、滋賀県も立地自治体並の合意条件を求めてほしいとこういう思いを多くの方が持たれているとさつたので嘉田知事も皆さんと話した上で、次の知事選でもチームしがとして問うていくべきだろうということで政策集にも反映し、皆様方にも発信した。政策集をこれからも進化させていきたい。

<質問 原子力は丸呑みで良いのか？>

<三日月>

嘉田知事の政策を丸ごと引き継ぐのか。嘉田知事の政策もたくさんある。どの部分をどう

丸ごとかというのは皆さん方のご評価それぞれだが、政策集をみていただければほぼ100%嘉田さんが頑張ってきたことで日本でも世界でも発信してきたことと同じであると私は理解している。かつプラスアルファで原子力政策に限らず継ぐべきは継ぎ、足らざるは補う。嘉田知事を前にしているのも何だが、ご苦労されたが、市町との関係、駅の作り方、交通政策、新駅設置も含めて公共交通の整備も含めて将来の布石を打たないと。そういうことに対してしっかり取り組めるチームしがをつくり、行動したい。

<質問 県政運営への評価とどういう部分を引き継いでほしいか？>

<嘉田>

県としてできなかったことプラスしたこと三点ある。一つは高コスト体質の公共事業の見直し。職員と地元を含めて大変なエネルギーいる。前の事業をそのまま引き継ぐ方が楽だ。しかし高コスト体質の公共事業見直しは滋賀県だけではなく他府県にも共有していただける。行政は間違いを起こさず、見直すこと無いという「無謬主義」が強いが、行政も見直しましょうという「時のアセス」をかけるというのを8年間でやってきた。ハードではなくソフトで対応できるところは対応しようと。霞ヶ関は本当に縦割り。ダムの問題も国では止められない。川の中で進めるのは河川局だが、止めるのは土地利用部局。防災は消防庁、総務省、霞ヶ関は縦割りのできないのに、自治体として横串を指してきた。魚のゆりかご水田では、農水と魚、農業と地域住民の参画というのがないとできない。雇用政策や保育女性参画、中小企業でも横串を指してきた。

一方で、追々様々な政策、農業、林業、商工業などは生産者側、団体側からの発想が強かった。そこに消費者、最終需要をお届けする視野が大変せまかった。「おいしが うれしが」などの新しい仕組みをつくった。その辺も滋賀として前向きにできた。民主党政権のうちに木材利用の政策も作っていただいた。十分に新しい新機軸を開くことができた。

自分の体力、気力、家族もずいぶん心配していた。毎晩ワインのボトルがたまる。息子達が心配する。24時間365日。海外出張の時に災害が起きたりする。気が抜けない。いじめ事件も家族に影響あった。最終的には知事の責任です。職員が精いっぱい動けるように常に気配りしていくという意味では気力、体力、あと四年はきわめて厳しいなという自己認識。

<質問、「未来」が与えた影響は？>

<嘉田>

衆議院が突然解散され、時間がない中で3・11以降初めての国政選挙だった。国政選挙で琵琶湖のリスク、原発のリスクを訴える受け皿がなく、分散していた。国政政党の受け皿が必要だった。琵琶湖に寄り添う政策が必要だった。県外で遊説しながら、「若狭と琵琶湖はそんなに近かったんですね。頑張ってる」と共感いただくことも多かった。しかし県内

ではなかなか理解してもらえなかった。「私たちに相談していない。勝手に動いた。知事が琵琶湖を捨てた。滋賀から出るんじゃないか」という意見が多かった。中身に入る前に手続き論的批判が多かった。小沢さんのイメージもマイナスだった。未来の党の中から見える琵琶湖、外から見える琵琶湖原子力が違うのは大きな発見だった。知事として琵琶湖が守れるのかなど。

二足のわらじを履くという批判で知事を重視したが、今でも自治体責任者が国政参加するのが必要と思っている。フランスやドイツでは自治体首長が国会議員である。国家がうまくいっている要因だと思う。二足のわらじ制度を作るべしと今でも思っている。ただ、あのときは時間もなくて説明不足でした。

<質問 大戸川ダム問題はどうする？>

<嘉田>

大戸川ダムには二つの機能がある。ひとつは淀川への治水効果、四知事合意で出した意見は「緊急性がない」ということ。ふたつめは、田上には地元の直下でダムの治水効果はある。国の方でダム検証をしてもらっている。イデオロギーでいらぬといっているのではない。ただし、今の大戸川ダムの計画の効果はきわめて少ないというので四知事合意になった。今の計画だと大阪、京都の同意と河川整備計画の出し直しが必要。知事意見に議会合意が必要。イデオロギーではなくどれだけ確実に県民に納得いただけるかということ。

<三日月>

大戸川ダムは検証中。どの政党や政権の主張ということではなく、治水効果を冷静にかつ確実に検証する。検証制度を作ったのは私。「基本高水」が机上の高水になっていないか。こういうのを含めてダムの効果検証していただいているか。宇治川瀬田川の合意事項も作っていただいての検証。連合は、関電含む電事連含む多くの団体の皆様にご支援いただくこともあった。しかし私自身の政治行動がその方にゆがめられることは一切無かった。その思いとして卒原発、滋賀からできるだけ早く再稼働には立地自治体並、きわめて大事。多くの困難、反発をもたれることもあるが、3・11を踏まえ取り組んでいきたい。

<嘉田>

2012年の未来の党の時、滋賀県内では私は候補者立てていない。比例で8万票いたしたが、県政の中でダムなど様々な問題で民主が知事与党としてやっていたということもあり遠慮した。未来の党は県外中心に琵琶湖の危険性を訴えた。今回の一本化も違和感ある方には説明しないといけませんが、政策、政治面で対立は無かったし、多くの部分で共通項があった。県民党のような集団。2012年の再稼働は大飯3、4号機の安全性については関西広域連合としては特に夏場の計画停電については強く懸念される部分もあった。夏限定というのは申し上げた。結果的には秋から冬まで動いていた。立地地元の知事の権

限は大変強いが被害地元の権限は大変弱い。ということで今回三日月さんがバージョンアップするのかどう行政手続きになるのかかなり大きなハードルだと思うが、私自身踏み込んでいただいた。

<三日月>

大飯再稼働の時に与党にいて相当悶絶した。ただ原発のこと申し上げるなら立地しているだけで一定のリスクある。固まって近くにあるほどリスクが高い。二つ目は再稼働するときに同意を求められること。その思いが強い。しかるべきところにしっかりいっていくことが大事。廃炉の問題が大事。あり方も含めてやっていかないといけない。新設増設ではなく一日も早くなくしていくのが世界に先駆けていやっていくのが大事。未来の党を嘉田さんが作られたのはぎょっとした。ただ、私は1年4ヶ月、地域をまわり多くを考えたとき私たちが足らなかったこと、嘉田知事が当時もたれていた不安を知り、問題意識の根源を知った。当時は政党与党だったが、大きな大儀で判断した。これから知事候補として、ご理解広めるべく一緒に頑張っていきたい。再稼働されるときに立地自治体並の同意条件もしっかり担保してほしい。避難ルートもそう。それはどこに対してどのようにして求めるのか協議していきたい。立地自治体並の同意条件、何が担保されていくのかしっかり確認していきたい。

<嘉田>

私は「チームしが」のように、まさに足下から草の根でやってきた。それを細川さん、小泉さんにも伝えたい。このあとどうするかは全く架空の話。きちんと見極めながらチーム滋賀として結集できるのが大事。チーム滋賀を育てるのが一番大事。

<質問 チームしがの組織は？>

<嘉田>

チーム滋賀は多機能集団。分かりやすくいうと一つは政策形成集団。多面的な選挙協力、政局含みで選挙協力するから地域の政策内実そろっていかない。選挙があろうが無かろうがチーム滋賀は何がベストか考えていく。ドイツがあれば政策ができているのは地域に政策形成集団が育っているから。地域に政策形成集団の不易の役割。また二つ目は「広報戦略集団」。若者女性の政治参加や投票率アップも不易の仕事になってくる。女性、サラリーマンが今、日本ではなかなか地域に関われない。これがベースにあることが選挙の母体にもある。知事選も選挙の一つだろうということで、知事選のためのチームではない。「遠い政治を近い政治」にしていく。音楽で政治に関心を持ってもらったり、政治にネットつかうという多様なメディア、そっちの役割を担わせていただきたい。

<三日月>

短く加えると旧来既存の関係にとらわれない団体。個人で参加できる運動体というのに取り組んでいきたい。

<嘉田>

チーム滋賀の政策形成集団が一番大事な活動。それはよく学者に戻るのかといわれるが私にとっては一緒。「w h y、なぜこの現象、政策が」という課題と、「H o wといういかに」というところでは法律や予算技術などの活用が課題となる。チーム滋賀を動かしながらそこには学問的なものを入れていきたいし、原子力は諸外国のことを勉強する必要があると考えている。学問と政治は一体のもの。社会には需要がないといけないので需要があるのかということだが、書物にまとめる、大学に教鞭とるというのもあるかもしれない。未来政治塾も対話の会もある意味でチーム滋賀の一つの核。知事を辞めたら政治塾によりエネルギー入れられるので対話の会とのつながりとかより深くつながれると思っている。

<三日月>

(知事候補という) その時点、立場になったときにしっかり申し上げたい。